

郷土館発

小正月で旧暦の風習に 親しんでみませんか

「小正月の飾り物を見に行かまいかん」、「少なくなつちやつたで写真に撮つとかまいかん」。

よくお世話になる金田さんからの誘いでした。

町内では今、小正月を祝う風習がわずかになりました。

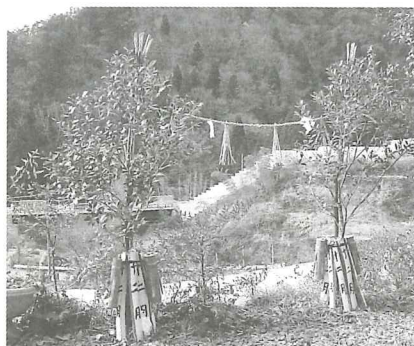
小正月は、旧暦の一月十五日を中心とするお正月のお祝いです。年始めの大正月に対し小正月と言われます。モチイのお正月、お百姓さんのお正月、道具のお正月とも言われます。



道具のお正月(郷土館)

その年の作物の豊作を祈る手作りの飾り物を何種類も作り、年神様をはじめ家の神仏に供えます。門松にも供えます。飾り物は、地区により家々により異なることが多いのが小正月の特色です。隣同士でも異なることが多いようです。

傾斜地が多く畑作中心の神田や平山地区では粟や稗の豊作を願い、粟穂や稗穂の模造品であるアワボウやヒエボウを作りました。



正月の門松(黒倉)



アワボウ(ヒエボウ)

お米所の名倉地区では、穂がたれる程お米が豊作でありますようにと願い、稲の穂垂れを模してホウダレを作りました。

飾り物を作る木の材質にも家々のこだわりがあります。「私の家は代々栗と決めている」のように実のなる木にこだわる家もありました。



各地の門松(郷土館)

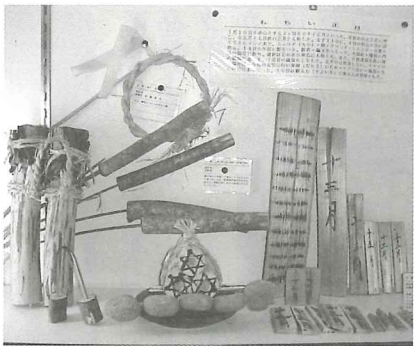
餅をつき鏡餅や餅花を祀りましたが、養蚕が盛んな所では繭玉を作りました。

旧暦による風習には、住民の生活と直接結びつく風習がより一層多いように感じます。百姓道具を丁寧に洗い清めて筵むしろに並べて飾る風習にも温かみを感じます。

郷土館で小正月の展示と触れ合い、旧暦の温かみに親しんでみませんか。

(奥三河郷土館

加藤 絃市)



小正月の飾り物(郷土館)